

令和4年度国立夜須高原青少年自然の家教育事業

ボランティア応援講座ステップアップ編

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業

【実施報告】

1 趣 旨 全国体験活動指導者認定委員会が選定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEALリーダー）を養成する。

2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3 期 間 令和5年1月7日（土）～9日（月・祝）

4 場 所 国立夜須高原青少年自然の家

5 参加者 9名

6 活動様子 別紙参照

7 感 想

①講義に関すること

- ・現状と課題を把握することができた。
- ・サイレント野外炊飯ではドキドキ感がある中で、周りに仲間がいる安心感がすごく感じられ、あの空間を楽しめた。
- ・対象者理解の講義内容は、リーダーとして最重要課題と認識できた。
- ・リスク管理の基本的な流れを理解できた。
- ・「応急」と「責任の所在」を理解できた。

②講師に関すること

- ・的確な助言、アドバイスは参考になった。
- ・実体験を交えた説明は説得力があった。
- ・サイレント野外炊飯では、事前準備や指導上の必要事項に改めて気づくことができた。
- ・「課題共有→原因分析→解決の検討→実践」を身近なテーマで行うことは参考になる。
- ・制約のある中での活動であっても、目的・目標を見失わなければ効果を期待できると感じた。

③事業全体に関すること

- ・コマの間に余裕があり、無理のない進行であったが、退屈するでもなく内容と時間配分ともに良好だった。
- ・講義や実践のテンポがよく、楽しく受講できた。
- ・多くの知識をインプットできたので、これからの活動に活かしていきたい。
- ・参加者間のグループワーク、振り返りの時間がもう少しほしかった。
- ・各講義の目的・目標を事前に周知してもらえると事前準備がしやすい。

8 成 果

今回の研修を通して、参加者9名とも認定試験を合格したこと、さらに参加者から「多くの知識をインプットできた」などの感想が挙げられていることから自然体験活動指導者として必要な知識や技術を提供し、習得してもらった上でのリーダーの養成という目的が達成できた。

講義内容は、座学だけではなくグループワークや実践、体験を通しての講義を多く取り入れたため、参加者が考えて行動することや発言する機会が多くあり、参加者の満足度も高くなったと考えられる。

9 課 題

参加者の感想にあった「事前に講義の目的・目標を周知してほしい」との要望があったが、講義の中で事業の目的や目標の説明は行っていたものの、参加者に対して、事前に各講義の目標は周知しておらず、事前に伝える必要があるのかについては今後検討したい。

しかしながら、講義内容によっては、事前に目標や内容を伝えることで参加者自身の感動体験が薄れることもあるため、講義内容を十分踏まえて検討する必要がある。

また、今回は当施設の次長が主任講師を務め、多くの講義を担当しており、今後は他職員が講義を分担しても同様もしくは同程度の内容で提供できるように職員間のスキルアップも努めていく必要がある。

6. 活動様子



自然体験活動の特質①



青少年における体験活動



自然体験活動の技術①



対象者理解



自然体験活動の指導



自然体験活動の安全管理①



自然体験活動の特質②



自然体験活動の安全管理②



自然体験活動の技術②